

琉球大学学術リポジトリ

沖縄諸島瀬長島のハムシ相

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学資料館 (風樹館) 公開日: 2021-10-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 重藤, 裕彬, Shigetoh, Hiroaki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/49929



沖縄諸島瀬長島のハムシ相

重藤裕彬

〒 237-0003 横浜市中区北仲通 5-57 横浜植物防疫所 (mofosr.45.9@gmail.com)

要旨 沖縄諸島瀬長島は 2012 年度以降の観光整備により島の大半が再開発され、ここ数年で急激に環境が変化したため、それに伴いハムシ相も大きく変化したことが予想された。しかし、再開発後、瀬長島におけるハムシ類を対象とした調査が行われておらず、環境改変によるハムシ相への影響は不明であった。今回、筆者は瀬長島におけるハムシ相について、野外調査および文献調査を行い、再開発前後のハムシ相の変化について考察した。2018–2020 年に実施した野外調査の結果、瀬長島から未記録種 8 種を含む 15 種のハムシ類が確認され、これまでの記録と合わせると同島におけるハムシ類の種数は 28 種となった。しかし、オオミドリサルハムシやカワリヒゲブトノミハムシなどの 13 種が再開発後に消失または著しく減少したことが判明した。

はじめに

沖縄諸島に属する瀬長島は沖縄島南部、豊見城市の西方約 600 m に位置する面積約 0.18 km²、最高標高 33 m の小島である (図 1, 2)。1946 年以降、米軍統治下での地形の大規模な改変によって本来の植生は失われ、二次林に覆われてい

る (豊見城市 2013)。その後、豊見城市の 2012 年度観光整備計画に基づく再開発 (以下、再開発) により (豊見城市 2013)、2012–2017 年にかけて、多くの二次林が伐採され (図 1a, b)、急激に環境が改変された (山崎 2015)。現在では宿泊施設や広場周辺にギンネムやアカギ、ガジュマルなどを主とした二次林が残されているが、その植生は極めて単調である。

瀬長島におけるハムシ相は、近年の急激な環境改変の影響を強く受けていることが予想される。内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2010, 2013) や楠井 (2017) は再開発前 (2002, 2004–2006, 2008, 2011, 2013 年) の採集標本をもとに 20 種 (種まで同定されていない 4 種を除く) を記録しているが、再開発後のハムシ類についてはほとんど調査されていない。また、これまでの瀬長島におけるハムシ相の調査は十分に行われたとは言い難く、更なるハムシ類の記録が期待された。

本報告では、瀬長島において野外調査を行い、その結果、8 種の同島初記録種を含む 15 種のハムシ類を記録する。また、これらの記録と再開発前の記録を比較し、環境改変による影響について若干の考察を行った。



図 1. 瀬長島の位置概念図。a) 航空写真 (2010 年)。出典：国土地理院撮影の空中写真 (2010 年撮影)、b) 航空写真 (2021 年)。出典：Google map を加工して使用。1–7 は採集地点。

Fig. 1. Location of Senaga-jima Island in Okinawa Islands, central Ryukyu, southwestern Japan. a) Aerial view in 2010. This photograph was taken by Geospatial Information Authority of Japan in 2010. b) Aerial view in 2021. This photograph is based on Google maps. 1–7, collecting sites of field surveys.



図2. 沖縄島から見た瀬長島の外観.
Fig. 2. A view of the east side of Senaga-jima Island from Okinawa-jima Island.

材料と方法

瀬長島における主な野外調査は2019年9月および2020年3月, 4月, 7月に行ったが, 2018年8月や2020年6月など同島を訪れた際に, 数種のハムシ類を採集している. 採集方法はスウィーピング法およびビーティング法を用いた. なお, これらの調査で得られた標本は全て筆者が採集し, 筆者および琉球大学風樹館 (RUMF) が保管している. また, 本報告では, 採集地の「沖縄県豊見城市瀬長」は全てにおいて共通するため省略し, 採集地点は次のとおり1-7の番号で示した (図1b):

採集地点1, クサギ *Clerodendrum trichotomum* やタイワンウオクサギ *Premna serratifolia* (シソ科), オオバギ *Macaranga tanarius* (トウダイグサ科), ガジュマル *Ficus microcarpa*, ハマイヌビワ *F. virgata* (クワ科), チシャノキ *Ehretia acuminata* var. *obovata* (ムラサキ科), テリハノブドウ *Ampelopsis glandulosa* var. *hancei* (ブドウ科), ノアサガオ *Ipomoea indica* (ヒルガオ科) などが多く, わずかにオキナワシャリンバイ *Rhaphiolepis indica* var. *liukuensis* (バラ科) が生える.

採集地点2, ガジュマルやハマイヌビワ, シマグワ *Morus australis* (クワ科) などの木本類のほかアザミ類 *Cirsium* sp. (キク科) やツルソバ *Persicaria chinensis* (タデ科) などが生える.

採集地点3, ガジュマルやハマイヌビワ, ギンネム *Leucaena leucocephala* (マメ科) などの木本類のほか, イネ科雑草やタチアワユキセンダングサ *Bidens pilosa* var. *radiata* などが多く, わずかにツルソバなども生える.

採集地点4, ガジュマルやオオバギ, オオムラサキシキブ *Callicarpa japonica* var. *luxurians* (シ

ソ科), オキナワシャリンバイ, イネ科雑草, ホシダ *Thelypteris acuminata* (ヒメシダ科) などが生える.

採集地点5, クサトベラ *Scaevola taccada* (クサトベラ科) やモンパノキ *Heliotropium arboretum* (ムラサキ科) などの木本類のほか砂浜にはグンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* (ヒルガオ科) やハマアズキ *Vigna marina* (マメ科), ハマゴウ *Vitex rotundifolia* (シソ科) などが生える.

採集地点6, マニラヤシ *Veitchia merrillii* (ヤシ科) が植栽されている.

採集地点7, 砂浜にグンバイヒルガオやハマアズキ, タチアワユキセンダングサなどが多い.

学名はLöbl & Smetana (2010) に従ったが, 以下の種についてはそれぞれの文献に従った: オキナワアシナガトビハムシ: Medvedev (2006); ナスナガスネトビハムシ: Nadein & Lee (2012); ハマゴウハムシ: Suenaga et al. (2018). また, 植物の学名は米倉・梶田 (2003-) に従った.

採集記録

ハムシ科 Chrysomelidae Latreille, 1802

ツツハムシ亜科 Cryptocephalinae Gyllenhal, 1813

1. ヒロヒゲツツハムシ

Diachus auratus (Fabricius, 1801)

(図3)

検視標本. 2 exs., 採集地点3, 17.IV.2020, 筆者保管; 2 exs., 採集地点7, 5.VII.2020, RUMF-ZI-49291-49292.

国内の分布. 徳之島, 与論島, 沖縄島, 津堅島, 古宇利島, 渡名喜島, 南大東島, 宮古島, 与那国島 (平野 1995; 重藤 2019a, 2020a, b, 2021; Shigetoh 2020; 重藤・吉武 2020; 滝沢 2007); 瀬長島 (本報告).

備考. 瀬長島初記録. 4月に採集した2個体は丘の上の日当たりの良い場所に生えているギンネムから得られた. また, 7月に採集した2個体はグンバイヒルガオが繁茂する砂浜をスウィーピングしたところ得られたが, グンバイヒルガオを食害していたのかは不明である.

サルハムシ亜科 Eumolpinae Hope, 1840

2. オキナワイモサルハムシ

Colasposoma viridicoeruleum Motschulsky, 1860

(図4)

検視標本. 3 exs., 採集地点1, 28.III.2020, 筆者保管; 4 exs., 採集地点3, 17.IV.2020, 筆者保管; 3

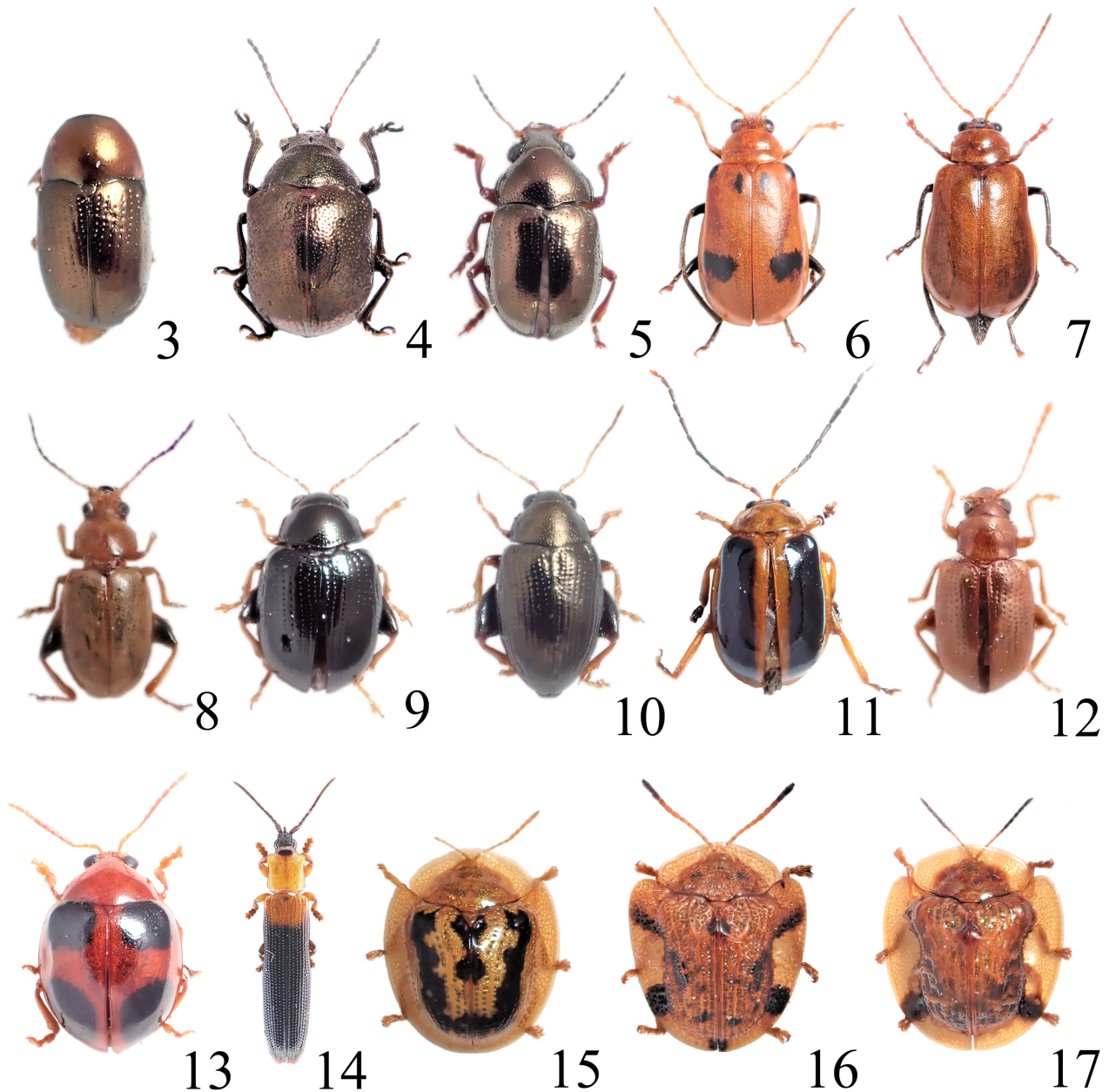


図3-17. 瀬長島で採集されたハムシ類. 3) ヒロヒゲツツハムシ, 4) オキナワイモサルハムシ, 5) クラウスチピサルハムシ, 6) フタイロウリハムシ, 7) ウリハムシ, 8) オキナワアシナガハムシ, 9) オカボヒサゴトビハムシ, 10) サツマイモヒサゴトビハムシ, 11) キベリヒラタノミハムシ, 12) ルイスコトビハムシ, 13) ヨツモンタマノミハムシ, 14) キムネクロナガハムシ, 15) タテスジヒメジンガサハムシ, 16) ヨツモンカメノコハムシ, 17) イチモンジカメノコハムシ.

Figs. 3–17. Chrysomelid beetles collected on Senaga-jima Island. 3) *Diachus auratus*, 4) *Colasposoma viridicoeruleum*, 5) *Nodina kraussi*, 6) *Aulacophora bicolor*, 7) *Aulacophora indica*, 8) *Aphthona albescens*, 9) *Chaetocnema chujoi*, 10) *Chaetocnema confinis*, 11) *Hemipyxis cinctipennis okinawana*, 12) *Manobia lewisii*, 13) *Sphaeroderma quadrimaculatum*, 14) *Brontispa longissima*, 15) *Cassida circumdata*, 16) *Lacoptera nepalensis*, 17) *Thlaspida cribrosa*.

exs., 採集地点 7, 5.VII.2020, 筆者保管.

国内の分布. 屋久島, 口之島, 中之島, 諏訪之瀬島, 悪石島, 宝島, 奄美大島, 加計呂麻島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島, 沖繩島, 浜比嘉島, 藪地島, 津堅島, 奥武島(南城市), 古宇利島, 瀬長島, 阿嘉島, 慶留間島, 渡名喜島, 久

米島, 宮古島, 伊良部島, 多良間島, 石垣島, 新城島, 八重山黒島, 西表島, 与那国島(東・木元 1981; 肥後 1981; 小林ら 1984; 小濱 2010; 小浜 2020b; 楠井 2010, 2017; 楠井・宮城 2017; 永田 1993; Satô et al. 1994; 重藤 2019a, 2020b, 2021; 重藤・吉武 2019; 滝沢 2009; 山崎ら 2016; 吉道・滝

沢 2007).

備考．内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2013) および楠井 (2017) によって記録されている．今回の調査では，本種の食草であるノアサガオおよびグンバイヒルガオから得られた．

3. クラウスチビサルハムシ

Nodina kraussi Kimoto & Gressitt, 1966

(図 5)

検視標本．2 exs., 採集地点 4, 5.VII.2020, 筆者保管．

国内の分布．沖縄島 (Kimoto & Gressitt 1966); 瀬長島 (本報告)．

備考．瀬長島初記録．今回の記録は国内における 2 島目の産地である．沖縄諸島に広く分布している可能性が高い．

ヒゲナガハムシ亜科 Galerucinae Latreille, 1802

4. フタイロウリハムシ

Aulacophora bicolor (Weber, 1801)

(図 6)

検視標本．1 ex., 採集地点 2, 28.III.2020, 筆者保管; 2 exs., 同地, 5.VII.2020, RUMF-ZI-49293-49294; 1 ex., 採集地点 3, 20.IX.2019, 筆者保管; 2 exs., 同地, 28.III.2020, RUMF-ZI-49295-49296; 1 ex., 同地, 17.IV.2020, RUMF-ZI-49297; 1 ex., 同地, 5.VII.2020, 筆者保管．

国内の分布．宝島, 奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島, 沖縄島, 浜比嘉島, 藪地島, 津堅島, 奥武島 (南城市), 古宇利島, 瀬長島, 粟国島, 渡名喜島, 久米島, 宮古島, 伊良部島, 石垣島, 八重山黒島, 新城島, 波照間島, 西表島, 与那国島 (廣森 2000; 今坂・祝 2007; 楠井 1991, 2017; 楠井・宮城 2017; Osada & Suenaga 2015; 佐々木ら 2002; 佐藤 2006; 重藤 2019a, b, 2020a, b; Shigetoh 2020; Suenaga et al. 2018; 高橋 2012; 滝沢 2011; 山崎ら 2016)．

備考．内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2010, 2013) および楠井 (2017) によって記録されている．

5. ウリハムシ

Aulacophora indica (Gmelin, 1790)

(図 7)

検視標本．1 ex., 採集地点 1, 20.IX.2019, RUMF-ZI-49298; 3 exs., 採集地点 3, 28.III.2020, 筆者保管; 1 ex., 採集地点 6, 17.IV.2020, 筆者保管．

国内の分布．本州, 飛島, 佐渡島, 粟島, 舂倉

島, 三宅島, 八丈島, 隠岐, 四国, 淡路島, 沖ノ島, 九州, 杵岐, 対馬, 五島列島, 平戸島, 天草, 上甕島, 下甕島, 種子島, 屋久島, 口永良部島, 黒島, 口之島, 中之島, 諏訪之瀬島, 悪石島, 宝島, 奄美大島, 請島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島, 沖縄島, 浜比嘉島, 藪地島, 津堅島, 伊平屋島, 野甫島, 伊是名島, 古宇利島, 瀬長島, 奥武島 (南城市), 渡名喜島, 座間味島, 阿嘉島, 慶留間島, 粟国島, 渡名喜島, 久米島, 北大東島, 南大東島, 宮古島, 伊良部島, 多良間島, 石垣島, 竹富島, 小浜島, 新城島, 波照間島, 鳩間島, 西表島, 与那国島 (東・木元 1975, 1981; 江平・小野田 1996; 肥後 1981; 廣森 1999; 今坂 2019; Kimoto 1980; 楠井 1991, 2017; 楠井・楠井 2006; 楠井・宮城 2017; 永田 1993; 中峯 2006; 佐々木ら 2002; Satô et al. 1994; 重藤 2019a, b, 2020; 高橋 2000; 滝沢 2011; 山崎ら 2016)．

備考．内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2013) および楠井 (2017) によって記録されている．4 月に得られた 1 個体は海岸付近の広場にある自動販売機の灯りにて採集した．

6. オキナワアシナガトビハムシ

Aphthona albescens Motschulsky, 1866

(図 8)

検視標本．1 ex., 採集地点 3, 20.IX.2019, 筆者保管．

国内の分布．与論島, 沖縄島, 奥武島 (南城市), 古宇利島, 慶留間島, 渡名喜島, 宮古島, 石垣島, 西表島 (東・木元 1981; 佐々木ら 2002; 重藤 2019a, 2020b, 2021; Shigetoh 2020; 重藤・吉武 2020; 滝沢 2012); 瀬長島 (本報告)．

備考．瀬長島初記録．

7. オカボヒサゴトビハムシ

Chaetocnema chujoi Takizawa, 2021

(図 9)

検視標本．1 ex., 採集地点 3, 17.IV.2020, 筆者保管．

国内の分布．屋久島, 中之島, 宝島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 沖縄島, 藪地島, 南大東島, 石垣島, 竹富島, 西表島, 与那国島 (東 1989; Kimoto 1980; Nakane & Kimoto 1961a; 重藤 2019b; 滝沢 2012; Takizawa 2021); 瀬長島 (本報告)．

備考．瀬長島初記録．今回の調査では丘の上の日当たりの良い草地に生えるイネ科雑草から得られた．琉球列島に分布するオカボヒサゴトビハムシは従来 *Chaetocnema nigrica* (Motschulsky, 1858) とされていたが, Takizawa

(2021)により、新たに *C. chujoi* として命名、記載された。

8. サツマイモヒサゴトビハムシ *Chaetocnema confinis* Crotch, 1873 (図 10)

検視標本 . 4 exs., 採集地点 1, 20.IX.2019, 筆者保管 ; 4 exs., 同地, 5.VII.2020, RUMF-ZI-49299–49302; 2 exs., 採集地点 3, 28.III.2020, 筆者保管 ; 2 exs., 同地, 17.IV.2020, RUMF-ZI-49303–49304; 2 exs., 同地, 5.VII.2020, 筆者保管 .

国内の分布 . 父島, 四国 (高知県), 九州, 種子島, 喜界島, 請島, 与路島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島, 沖繩島, 伊計島, 宮城島, 浜比嘉島, 藪地島, 津堅島, 奥武島 (南城市), 久高島, 伊平屋島, 野甫島, 伊是名島, 伊江島, 古宇利島, 水納島 (本部町), 座間味島, 栗国島, 渡名喜島, 久米島, 南大東島, 宮古島, 大神島, 来間島, 多良間島, 石垣島, 竹富島, 小浜島, 波照間島, 西表島, 与那国島 (今坂・石関 2012; 今坂・祝 2007; 小濱 2010; 小濱・安藤 2018; 楠井・宮城 2017; 宮内 2020; 宮崎県 2012; 重藤 2019b, 2020b; Shigetoh 2020; 重藤・吉武 2018a, b; Takizawa 1998; 滝沢 2012; 東京都 2012); 瀬長島 (本報告).

備考 . 瀬長島初記録 . 本種の寄主植物であるノアサガオおよびグンバイヒルガオから得られた .

9. キベリヒラタノミハムシ沖繩本島亜種 *Hemipyxis cinctipennis okinawana* Nakane & Kimoto, 1961 (図 11)

検視標本 . 2 exs., 採集地点 1, 17.IV.2020, RUMF-ZI-49305–49306; 1 ex., 採集地点 4, 5.VII.2020, 筆者保管 .

国内の分布 . 沖繩島, 浜比嘉島, 藪地島, 久米島 (楠井・宮城 2017; Nakane & Kimoto 1961b; 佐藤 2006; 重藤 2019b); 瀬長島 (本報告).

備考 . 瀬長島初記録 . クサギおよびタイワンウオクサギに多数発生しており, オオムラサキシキブからも得られた .

10. ルイスコトビハムシ *Manobia lewisii* Jacoby, 1885 (図 12)

検視標本 . 1 ex., 採集地点 4, 28.III.2020, 筆者保管 .

国内の分布 . 九州, 屋久島, 口之島, 奄美大

島, 徳之島, 沖永良部島, 沖繩島, 藪地島 (Kimoto 1980; Kimoto & Gressitt 1966; 重藤 2019b); 瀬長島 (本報告).

備考 . 瀬長島初記録 . 林縁脇のシダ類をスウィーピングしたところ得られた . 本種の寄主植物であるホシダから得られたものと考えられる .

11. ヨツモンタマノミハムシ *Sphaeroderma quadrimaculatum* Chûjô, 1935 (図 13)

検視標本 . 1 ex., 採集地点 1, 20.IX.2019, 筆者保管 ; 1 ex., 同地, 17.IV.2020, RUMF-ZI-49307.

国内の分布 . 九州, 種子島, 屋久島, 中之島, 悪石島, 宝島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島, 沖繩島, 古宇利島, 瀬長島, 渡名喜島, 久米島, 宮古島, 石垣島, 八重山黒島, 西表島 (東・木元 1981; Kimoto 1980; Kimoto & Gressitt 1966; 永田 1993; 永田ら 1993; Nakane & Kimoto 1961a; 重藤 2019a, 2021; Suenaga et al. 2018; 高橋 2012; 滝沢 2013; 山崎ら 2016).

備考 . 内閣府沖繩総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2013) によって記録されている . オキナワシャリンバイから得られた .

カメノコハムシ亜科 Cassidinae Gyllenhal, 1813 12. キムネクロナガハムシ *Brontispa longissima* (Gestro, 1885) (図 14)

検視標本 . 10 exs., 採集地点 6, 21.VI.2020, 筆者保管 .

国内の分布 . 沖永良部島, 与論島, 沖繩島, 宮古島, 伊良部島, 多良間島, 石垣島, 小浜島, 西表島, 与那国島 (小浜・砂川 2020; Takano et al. 2011; Takasu et al. 2010; 滝沢 2014); 瀬長島 (本報告).

備考 . 瀬長島初記録 . 島の周回道路に沿って植栽されたマニラヤシから得られた (図 18, 19). 本種はヤシ類の新芽を加害し, 枯死または葉枯れなどの症状を引き起こすため, 農業害虫としても知られているほか (東・金城 1978), 街路樹としての景観が損なわれるなどの被害もあり, 早期的な防除が必要である .

13. タテスジヒメジンガサハムシ *Cassida circumdata* Herbst, 1799 (図 15)

検視標本 . 1 ex., 採集地点 1, 20.IX.2019, 筆者保管 ; 1 ex., 採集地点 3, 28.III.2020, 筆者保管 ; 1



図 18. キムネクロナガハムシの採集環境; 図 19. キムネクロナガハムシに食害されたマニラヤシ.
 Fig. 18. Habitat of *Brontispa longissima* in Senaga-jima Island; Fig. 19. *Adonidia merrillii* damaged by *Brontispa longissima*.

ex., 採集地点 5, 28.III.2020, RUMF-ZI-49308, 1 ex., 採集地点 7, 17.IV.2020, RUMF-ZI-49309.

国内の分布. 本州 (大阪府, 奈良県, 岡山県), 三宅島, 八丈島, 硫黄島, 中硫黄島, 九州 (宮崎県), 種子島, 屋久島, 宝島, 奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島, 沖縄島, 浜比嘉島, 藪地島, 津堅島, 古宇利島, 伊平屋島, 瀬長島, 渡名喜島, 久米島, 南大東島, 宮古島, 石垣島, 八重山黒島, 波照間島, 西表島, 与那国島, 尖閣諸島 (東・木元 1981; 今坂・祝 2007; 川畑 2010; 小濱 2010; 小浜 2020b; 楠井 2017; 楠井・宮城 2017; 長嶺 2007; Nakane & Kimoto 1961a, b; 中武 2009; 奈良県 2020; 大貝 2015; 大阪府 2012; 重藤 2019a, b, 2021; 重藤・瑤寺 2020; 末長 2016; 高橋 2012; Takizawa 1982; 滝沢 2014; 東京都 2004).

備考. 内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2013) および楠井 (2017) によって記録されている. 今回の調査では, 本種の寄主植物であるノアサガオやグンバイヒルガオから得られた.

14. ヨツモンカメノコハムシ

Laccoptera nepalensis Boheman, 1855

(図 16)

検視標本. 6 exs., 採集地点 1, 12.VII.2018, 筆者保管; 3 exs., 同地, 20.IX.2019, 筆者保管; 2 exs., 同地, 28.III.2020, 筆者保管; 1 ex., 同地, 17.IV.2020, RUMF-ZI-49310.

国内の分布. 本州 (東京都, 神奈川県, 静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 和歌山県, 大阪府, 兵

庫県, 山口県), 伊豆大島, 三宅島, 八丈島, 向島 (山口県), 蓋井島 (山口県), 四国, 九州, 志賀島 (福岡県), 向島 (佐賀県), 青島 (長崎県), 大入島 (大分県), 上甕島, 下甕島, 種子島, 屋久島, 薩摩黒島, 奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島, 沖縄島, 伊平屋島, 古宇利島, 屋我地島, 瀬底島, 水納島 (本部町), 伊江島, 伊計島, 宮城島, 平安座島, 浜比嘉島, 藪地島, 津堅島, 瀬長島, 奥武島 (南城市), 粟国島, 渡名喜島, 久米島, 宮古島, 池間島, 伊良部島, 下地島, 来間島, 石垣島, 小浜島, 八重山黒島, 新城島, 波照間島, 竹富島, 西表島, 与那国島, 魚釣島 (今坂ら 2020; 小浜 2020a; 大原・山田 2020; 重藤ら 2020; 篠原・長島 2020; 高井・酒向 2019; 脇・藤本 2020).

備考. 今回の野外調査によって採集された標本の一部は重藤ら (2020) によって既に記録している. 本種の食草であるノアサガオから得られた. また, 重藤ら (2020) において初記録として報告されているが, 内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2010, 2013) が既に報告している.

15. イチモンジカメノコハムシ

Thlaspida cribrata (Boheman, 1855)

(図 17)

検視標本. 1 ex., 採集地点 2, 28.III.2020, 筆者保管; 1 ex., 採集地点 5, 17.IV.2020, RUMF-ZI-49311; 1 ex., 同地, 5.VII.2020, RUMF-ZI-49312; 1 ex., 同地, 24.I.2020, 筆者保管.

国内の分布．本州，八丈島，淡路島，四国，小豆島，九州，対馬，平戸，天草，沖永良部島，沖繩島，藪地島，古宇利島，瀬長島，渡名喜島（藤本 2019; 川畑 2010; 重藤 2019a, b, 2021; 高橋 2000; 滝沢 2014）．

備考．内閣府沖繩総合事務局・国土交通省大阪航空局（2010）および楠井（2017）によって記録されている．本種の寄主植物であるオオムラサキシキブから得られた．

考察

瀬長島のハムシ相について．本報告により，瀬長島から 8 種の初記録種を含む 15 種のハムシ類が記録され，同島におけるハムシ類の記録は 5 亜科 28 種となった（表 1）．これら全てのハムシ類が主要島である沖繩島との共通種である．瀬長島は面積が非常に小さく，標高も低いにも関わらず，比較的多くのハムシ類が記録されている．特に現在の沖繩島南部地域では少ないオオミドリサルハムシ *Platycorynus japonicus japonicus* (Jacoby, 1896) (2006 年確認 (楠井 2017)) やヒメカメノコハムシ *C. piperata* Hope, 1842, コガタカメノコハムシ *Cassida vespertina*

表 1. 瀬長島のハムシ類．

Table. 1. A list of chrysomelid species recorded from Senaga-jima Island.

和名 (Japanese name)	学名 (Scientific name)	再開発前 (Before re-development)			再開発後 (After re-development)
		内閣府総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2010)	内閣府総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2013)	楠井 (2017)	今回の調査 (Present study)
		調査年 2002 (surveyed year 2002)	調査年 2011 (surveyed year 2011)	調査年 2004–2013 (surveyed year 2004–2013)	調査年 2018–2020 (surveyed year 2018–2020)
1 ヒロヒゲツツハムシ	<i>Diachus auratus</i> (Fabricius)				+
2 ツツサルハムシ	<i>Abirus fortunei</i> (Baly)		+	+	
3 アカガネサルハムシ沖繩亜種	<i>Acrothinium gaschkevitchii okinawense</i> Nakane		+		
4 オキナワイモサルハムシ	<i>Colasposoma viridicoeruleum</i> Motschulsky		+	+	+
5 クラウスチピサルハムシ	<i>Nodina kraussi</i> Kimoto & Gressitt				+
6 オオミドリサルハムシ	<i>Platycorynus japonicus japonicus</i> (Jacoby)			+	
7 ダイコンハムシ	<i>Phaedon brassicae</i> Baly			+	
8 オキナワアオバホソハムシ	<i>Apophyllia elongata</i> (Jacoby)		+	+	
9 フタイロウリハムシ	<i>Aulacophora bicolor</i> (Weber)	+	+	+	+
10 ウリハムシ	<i>Aulacophora indica</i> (Gmelin)		+	+	+
11 カミナリハムシ	<i>Altica aenea</i> (Olivier)		+		
12 オキナワアシナガトビハムシ	<i>Aphthona albescens</i> Motschulsky				+
13 ヘリグロテントウノミハムシ	<i>Argopistes coccinelliformis</i> Csiki			+	
14 オカボヒサゴトビハムシ	<i>Chaetocnema chujoi</i> Takizawa				+
15 ヒメドウガネトビハムシ	<i>Chaetocnema concinnicollis</i> (Baly)	+			
16 サツマイモヒサゴトビハムシ	<i>Chaetocnema confinis</i> Crotch				+
17 キベリヒラタノミハムシ 沖繩本島亜種	<i>Hemipyxis cinctipennis okinawana</i> Nakane & Kimoto				+
18 ルイスコトビハムシ	<i>Manobia lewisi</i> Jacoby				+
19 カワリヒゲブトノミハムシ	<i>Nonarthra amamiana</i> Chûjô	+			
20 ベーリーナガスネトビハムシ	<i>Psylliodes balyi</i> Jacoby	+			
21 ナスナガスネトビハムシ	<i>Psylliodes viridana</i> Motschulsky		+		
22 ヨツモンタマノミハムシ	<i>Sphaeroderma quadrimaculatum</i> Chûjô		+		+
23 キムネクロナガハムシ	<i>Brontispa longissima</i> (Gestro)				+
24 タテスジヒメジンガサハムシ	<i>Cassida circumdata</i> Herbst		+	+	+
25 ヒメカメノコハムシ	<i>Cassida piperata</i> Hope		+		
26 コガタカメノコハムシ	<i>Cassida vespertina</i> Boheman		+		
27 ヨツモンカメノコハムシ	<i>Lacoptera nepalensis</i> Boheman	+	+		+
28 イチモンジカメノコハムシ	<i>Thlaspida cribrata</i> (Boheman)	+		+	+
各報告における種数 Number of species in each report		5	13	10	15
再開発前後の合計種数					20
Total number of species before and after re-development					28

Boheman, 1862 (2011 年確認 (内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2013)) などのハムシ類が記録されていることを鑑みると、再開発前の瀬長島におけるハムシ相は比較的豊かであったと言える。

環境改変による影響。今回の野外調査では内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局 (2010, 2013) および楠井 (2017) で記録されている 20 種のうち 13 種が確認されなかった (表 1)。それらの種のうち 12 種 (ツツサルハムシ *Abirus fortunei* (Baly, 1861) やアカガネサルハムシ沖縄亜種 *Acrothinium gaschkevitchii okinawense* Nakane, 1985, ダイコンハムシ *Phaedon brassicae* Baly, 1874, オキナワアオバホソハムシ *Apophyllia elongata* (Jacoby, 1896), カミナリハムシ *Altica aenea* Olivier, 1808, ヘリグロテントウノミハムシ *Argopistes coccinelliformis* Csiki, 1940, ヒメドウガネトビハムシ *Chaetocnema concinnicollis* (Baly, 1874), カワリヒゲブトノミハムシ *Nonarthra amamiana* Chûjô, 1957, ベーリーナガスネトビハムシ *Psylliodes balyi* Jacoby, 1884, ナスナガスネトビハムシ *P. viridana* (Motschulsky, 1858), ヒメカメノコハムシ, コガタカメノコハムシ) について、今回の調査で寄主植物が生えているのを確認したのにも関わらず、採集されていない。これら 12 種は沖縄諸島内でよくみられる種であり、複数回行われた野外調査で採り漏らした可能性は極めて低く、環境改変により瀬長島から消失または減少し、現在に至るまでに回復していないものと考えられる。特にカミナリハムシおよびベーリーナガスネトビハムシ, ナスナガスネトビハムシ, ヒメカメノコハムシなどについては、定期的に行われる除草作業により、ツルソバやイヌホウズキ *Solanum nigrum* (ナス科), アカザ *Chenopodium album* var. *centrorubrum* (ヒユ科) などの餌資源を継続して確保することが難しいことがその要因の一つであると考えられる。

オオミドリサルハムシについては、寄主植物であるオキナワテイカカズラ *Trachelospermum gracilipes* var. *liukiense* (キョウチクトウ科) が今回の調査では見当たらず、環境改変により、食草とともに瀬長島から消失したものと考えられる。

本報告により新たに記録したヒロヒゲツツハムシおよびクラウスチビサルハムシ, オキナワアシナガトビハムシ, サツマイモヒサゴトビハムシ, オカボヒサゴトビハムシ, キベリヒラタノミハムシ沖縄本島亜種, ルイスコトビハムシの 7 種については、沖縄諸島でよくみられる種であり、再開発以前から生息していた可能性が高い。これらの種の食草はギンネムやノアサ

ガオなどのヒルガオ科植物, イネ科雑草, タイワンウオクサギなど開拓地において優先的に生育している植物およびホシダなど島内の二次林の林内や林縁に生育している植物であり、環境改変による影響は比較的少なかったものと推察される。一方で、再開発後に侵入した種としてキムネクロナガハムシが挙げられる。本種が得られたマニラヤシの正確な植栽時期は不明であるが、元来瀬長島に分布している植物ではなく、2011 年に行われたアセスメント調査においても報告されていない (内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局, 2013)。したがって、2012 年以降のマニラヤシの植栽時に付着して侵入した可能性が高い。

引用文献

- 東清二, 1989. 南大東島の昆虫相に関する若干の考察. 沖縄農業, 24: 27-39.
- 東清二・木元新作, 1975. 宮古島のハムシ相. 琉球大学農学部学術報告, (22): 125-129.
- 東清二・木元新作, 1981. 沖縄の離島のハムシ類目録 (資料). 琉球大学農学部学術報告, (28): 49-55.
- 東清二・金城政勝, 1978. 沖縄本島から新しく記録されるヤシ類の害虫 2 種. 沖縄農業, 14: 21-25.
- 江平憲治・小野田繁, 1996. 鹿児島県・黒島の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (15): 39-48.
- 藤本博文, 2019. 小豆島で採集した甲虫 (3). ヘリグロ, (40): 21-33.
- 肥後昌幸, 1981. トカラ列島諏訪之瀬島の昆虫 (1980 年). Satsuma, (86): 200-201.
- 平野幸彦, 1995. 那覇空港の移入甲虫 2 種. 月刊むし, (239): 39.
- 廣森敏明, 1999. 1998 年 10 月口之島の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (18): 5-10.
- 廣森敏明, 2000. 1999 年 11 月トカラ列島 - 宝島 - の昆虫相. Satsuma, (121): 50-61.
- 今坂正一, 2019. 甌島列島の甲虫類 -1982 年の下甌島採集品と既知記録からみた甲虫相-. Satsuma, (162): 1-109.
- 今坂正一・石関博, 2012. サツマイモヒサゴトビハムシのエンサイへの加害, および国内における分布と単為生殖個体群の存在について. さやばねニューシリーズ, (5): 18-21.
- 今坂正一・祝輝男, 2007. 喜界島で 2007 年に採集した甲虫. Satsuma, (138): 119-129.
- 今坂正一・國分謙一・伊藤玲央・有馬浩一, 2020. 甌島採集紀行 2019 夏. Korasana, (93): 43-108.

- 川畑喜照, 2010. 伊豆諸島八丈島の甲虫 VII. 神奈川虫報, (172): 29–39.
- Kimoto, S., 1980. Catalogs of the Chrysomelidae of Tokara Is., Kikaigashima and Okierabujima in the Ryukyu Archipelago. Kurume University Journal, 29: 153–159.
- Kimoto, S. & J. L. Gressitt, 1966. The Chrysomelidae of the Ryukyu Archipelago. Pacific Insects, 8: 467–577.
- 小林真澄・守山泰司・高井泰, 1984. 1980 年度夏季徳之島合宿採集報告. Leben, (19): 35–69.
- 小濱継雄, 2010. 沖縄県におけるサツマイモの食葉性害虫. 沖縄県農業研究センター研究報告, (4): 27–31.
- 小濱継雄, 2020a. 鹿児島三島村黒島のハムシ類 5 種の記録. 月刊むし, (598): 51–52.
- 小濱継雄, 2020b. 八重山諸島黒島におけるサツマイモにつくハムシ 3 種の記録. Pulex, (99): 840–841.
- 小濱継雄・安藤緑樹, 2018. 沖縄県におけるサツマイモヒサゴトビハムシの分布状況とその宿主植物. 沖縄県農業研究センター研究報告, (12): 43–47.
- 小濱継雄・砂川博秋, 2020. 伊良部島初記録のキムネクロナガハムシ. Pulex, (99): 818–819.
- 楠井善久, 1991. 古宇利島における 10 月の昆虫. 琉球の昆虫, (14): 16–21.
- 楠井善久, 2010. 敷地島 (うるま市) のソテツ葉上で採集した甲虫. 琉球の昆虫, (34): 33–34.
- 楠井善久, 2017. 瀬長島 (沖縄県豊見城市) の甲虫目録 (1987 年から 2007 年まで). 琉球の昆虫, (41): 25–32.
- 楠井善久・楠井陽子, 2006. 野甫島 (伊平屋諸島) のハムシとゾウムシの小記録. 琉球の昆虫, (28): 50–51.
- 楠井善久・宮城秋乃, 2017. 浜比嘉島 (うるま市) の甲虫目録. 琉球の昆虫, (41): 39–49.
- Löbl, I. & A. Smetana, 2010. Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 6. Chrysomelidae. Apollo Books, Stenstrup.
- Medvedev, L. N., 2006. To the knowledge of Chrysomelidae (Coleoptera) described by V. Motschulsky. Russian Entomological Journal, 15: 409–417.
- 宮内博至, 2020. 四国でサツマイモヒサゴトビハムシ採集. さやばねニューシリーズ, (40): 19–20.
- 宮崎県, 2012. 平成 23 年度病害虫発生予察特殊報 2 号. URL: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/10/tokusyu/23nen/h23tokusyu02.pdf>
- 長嶺邦雄, 2007. 南大東島の昆虫. 琉球の昆虫, (31): 65–66.
- Nadein, K. & C.-F. Lee, 2012. New data about some Alticini from Taiwan with descriptions of two new species (Coleoptera, Chrysomelidae). Bonn Zoological Bulletin, 61: 41–48.
- 永田武志, 1993. 1992 年梅雨時の与論島の甲虫. Leben, 23: 45–47.
- 永田武志・藤田寛・姫野尊雄, 1993. 1992 年沖永良部島夏合宿の報告. Leben, (23): 22–31.
- 内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局, 2010. 那覇空港滑走路増設事業に係る環境影響評価方法書. 394 pp. URL: http://www.dc.ogb.go.jp/Kyoku/information/nahakuukou/14_assess/houhousyo.pdf
- 内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局, 2013. 那覇空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書. 131 pp. URL: http://www.dc.ogb.go.jp/Kyoku/information/nahakuukou/14_assess/1.html
- 中峯浩司, 2006. 奄美群島請島 2004 年 9 月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (25): 63–67.
- Nakane, T. & S. Kimoto, 1961a. Entomological results from the scientific survey of the Tokara Islands, Coleoptera: Chrysomelidae. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, (13): 71–79.
- Nakane, T. & S. Kimoto, 1961b. A list of chrysomelid-beetles collected by Dr. T. Shiraki from the Loo-choo islands, with descriptions of new species. Kontyû, 29: 106–110.
- 中武文広, 2009. タテスジヒメジンガサハムシが宮崎県に分布. タテハモドキ, (45): 12.
- 奈良県, 2020. 令和 2 年度病害虫発生予察特殊報 第 1 号. 2 pp. URL: http://www.jppn.ne.jp/nara/20200709_%E7%89%B9%E6%AE%8A%E5%A0%B1_%E5%A5%88%E8%89%AF%E7%9C%8C_1%E5%8F%B7_%E3%82%BF%E3%83%86%E3%82%B9%E3%82%B8%E3%83%92%E3%83%A1%E3%82%B8%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%82%B5%E3%83%8F%E3%83%A0%E3%82%B7HP.pdf
- 大貝秀雄, 2015. 与論島新記録のコクロカメムシおよびその他の昆虫. 月刊むし, (534): 52.
- 大原賢二・山田量崇, 2020. 徳島で確認されたヨツモンカメノコハムシ. 徳島県立博物館研究報告, (30): 101–103.
- 大阪府, 2012. 平成 24 年度病害虫発生予察特殊報 第 1 号. URL: <http://www.jppn.ne.jp/osaka/H24nd/tokushu/no1.html>
- Osada, Y. & H. Suenaga, 2015. A new record of *Aulacophora bicolor* (Weber, 1801) (Coleoptera, Chrysomelidae, Galerucinae) from Hateruma-

- jima Is. of the Ryukyus, Japan. Elytra, (n. ser.), 5: 483–484.
- 佐々木健志・木村正明・河村太, 2002. コウチュウ目・東清二(監修), 屋富祖昌子・林正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村太(編), 琉球列島産昆虫目録(増補改訂版). Pp. 157–284. 沖縄生物学会, 西原.
- 佐藤文保, 2006. 久米島の昆虫リスト. 久米島自然文化センター, (6): 57–89.
- Satô, M., M. Sasaki, Y. Notsu, S. Kaneko & M. Kimura, 1994. Records of Coleoptera from the Tokara Islands collected in 1992 and 1993. In: M. Satô, S. Morita, N. Ohbayashi, M. Kimura, M. Sakai, Y. Notsu, S. Kaneko & Y. Hori (eds.), The Insects Fauna of the Tokara Islands of the Ryukyu Archipelago. WWF Japan Science Report, Tokyo, 2: 251–309.
- 重藤裕彬, 2019a. 沖縄諸島渡名喜島未記録のハムシ類. さやばねニューシリーズ, (33): 20–24.
- 重藤裕彬, 2019b. 藪地島(沖縄諸島)未記録のハムシ類. 月刊むし, (583): 41–45.
- 重藤裕彬, 2020a. 沖縄諸島津堅島におけるハムシ類の採集記録. 月刊むし, (587): 42–45.
- 重藤裕彬, 2020b. 沖縄諸島奥武島(南城市)におけるハムシ類. Fauna Ryukyuna, (58): 47–56.
- Shigetoh, H., 2020. The leaf beetle fauna (Coleoptera, Chrysomelidae) of Yoron-jima Is., the Amami Isls., central Ryukyus, southwestern Japan. Elytra, (n. ser.), 10: 147–164.
- 重藤裕彬, 2021. 沖縄諸島古宇利島のハムシ類. 月刊むし, (606): 38–41.
- 重藤裕彬・末長晴輝・南雅之・渡部晃平, 2020. ヨツモンカメノコハムシの分布記録および日本国内, 特に琉球列島における分布の現状. ホシザキグリーン財団研究報告, (23): 227–243.
- 重藤裕彬・瑤寺裕, 2020. 伊豆諸島三宅島からのタテスジヒメジンガサハムシの記録. さやばねニューシリーズ, (40): 59–61.
- 重藤裕彬・吉武啓, 2018a. 奄美群島請島において冬季に採集されたハムシ類. さやばねニューシリーズ, (29): 17–19.
- 重藤裕彬・吉武啓, 2018b. 奄美群島与路島において冬季に採集されたハムシ類. 月刊むし, (568): 34–37.
- 重藤裕彬・吉武啓, 2019. 奄美群島加計呂麻島初記録のハムシ類. さやばねニューシリーズ, (34): 19–22.
- 重藤裕彬・吉武啓, 2020. 大東諸島南大東島で採集されたハムシ類. さやばねニューシリーズ, (38): 43–49.
- 篠原忠・長島聖大, 2020. 兵庫県におけるヨツモンカメノコハムシの記録. きべりはむし, 43(2): 60.
- 末長晴輝, 2016. 岡山県におけるハムシ類の分布記録(3). すずむし, (151): 13–14.
- Suenaga, H., H. Shigetoh & H. Yoshitake, 2018. Distributional records of leaf beetles (Coleoptera, Chrysomelidae) from Tokunoshima Is., the Amami Isls., central Ryukyus, southwestern Japan (I). Elytra, (n. ser.), 8: 103–113.
- 高橋徹, 2012. ハムシ科(マメゾウムシ亜科・ネクイハムシ亜科を除く). 初宿成彦(編), 大阪自然史博物館所蔵甲虫類目録(2). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第44集. Pp. 239–372, 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 高橋壽郎, 2000. 淡路島産甲虫目録(3). Parnassius, (49): 1–16.
- 高井泰・酒向正美, 2019. IV. 外来種(7) 昆虫類. 守りたい加茂の豊かな自然編集委員会(編), 守りたい加茂の豊かな自然. Pp. 303–315, 美濃加茂市・坂祝市・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村, 美濃加茂.
- Takano, S., A. Mochizuki, K. Konishi, K. Takasu, J. C. Alouw, D. S. Pandin & S. Nakamura, 2011. Two cryptic species in *Brontispa longissima* (Coleoptera: Chrysomelidae): evidence from mitochondrial DNA analysis and crosses between the two nominal species. Annals of the Entomological Society of America, 104: 121–131.
- Takasu, K., S. Takano & S. Nakamura, 2010. An invasive pest *Brontispa longissima* (Gestro) (Coleoptera: Chrysomelidae) attacks a palm in the Yaeyama Islands, Japan. Applied Entomology and Zoology, 45: 137–144.
- Takizawa, H., 1982. Notes on Japanese Chrysomelidae (Coleoptera). The Entomological Review of Japan, 37: 55–60.
- Takizawa, H., 1998. Notes on Japanese Chrysomelidae (Coleoptera). Part 3. Elytra, 26: 217–222.
- 滝沢春雄, 2007. 日本産ハムシ科生態覚書(2). 神奈川虫報, (157): 17–26.
- 滝沢春雄, 2009. 日本産ハムシ科生態覚書(4). 神奈川虫報, (168): 1–11.
- 滝沢春雄, 2011. 日本産ハムシ科生態覚書(5). 神奈川虫報, (173): 35–51.
- 滝沢春雄, 2012. 日本産ハムシ科生態覚書(6). 神奈川虫報, (177): 33–51.
- 滝沢春雄, 2013. 日本産ハムシ科生態覚書(7). 神奈川虫報, (179): 17–33.

- 滝沢春雄, 2014. 日本産ハムシ科生態覚書 (8). 神奈川虫報, (182): 37–46.
- Takizawa, H., 2021. Descriptions of four new alticine species from Japan (Coleoptera: Chrysomelidae). Elytra (n. ser.), 11: 155–165.
- 豊見城市, 2013. 瀬長島観光拠点整備計画 (概要版). 16 pp. URL: http://www.city.tomigusuku.okinawa.jp/sp/userfiles/files/municipal_government/sinko-senaga-gaiyou.pdf
- 東京都, 2004. 平成 16 年度病害虫発生予察特殊報 第 1 号. 3 pp. URL: https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/nourin/pdf/yosatu/toku/TOK_040708_TATESUJI.pdf
- 東京都, 2012. 平成 24 年度病害虫発生予察特殊報 第 2 号. 2 pp. URL: https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/nourin/pdf/yosatu/toku/TOK_121023_satsumaimohisago.pdf
- 脇悠太・藤本博文, 2020. 香川県でヨツモンカメノコハムシを採集. 月刊むし, (598): 19–20.
- 山崎仁也, 2015. 瀬長島におけるオカガニ *Discoplax hirtipes* の産卵生態 その 2. 沖縄県立博物館・美術館, 博物館紀要, (8): 17–22.
- 山崎仁也・松村雅史・吉田和久・力身恭二・目黒賢児, 2016. 鳩間島・新城 (上地) 島・黒島の動物相 (FAUNA) ～昆虫相を中心に～. 沖縄県立博物館・美術館 (編), 鳩間島・新城島・黒島総合調査報告書. Pp. 66–79, 沖縄県立博物館・美術館, 那覇.
- 米倉浩司・梶田忠, 2003-. BG Plants 和名 – 学名 インデックス (YList). URL: <http://ylist.info>
- 吉道俊一・滝沢春雄, 2007. 琉球地方からのハムシ類の新産地. 甲虫ニュース, (158): 5–6.

recorded 15 chrysomelid species, including 8 newly recorded species, from the island, i.e. 1) *Diachus auratus*, 2) *Nodina kraussi*, 3) *Aphthona albescens*, 4) *Chaetocnema chujoi*, 5) *Chaetocnema confinis*, 6) *Hemipyxis cinctipennis okinawana*, 7) *Manobia lewisii*, and 8) *Brontispa longissima*. Consequently, a total of 28 species in four subfamilies have been recorded from Senaga-jima Island. Recent field surveys also suggest that 13 species, such as *Platycorynus japonicus japonicus* and *Nonarthra amamiana*, have disappeared or greatly diminished in number.

投稿日: 2021 年 2 月 23 日

受理日: 2021 年 6 月 11 日

発行日: 2021 年 10 月 25 日

The leaf beetle fauna (Coleoptera, Chrysomelidae) of Senaga-jima Island, Okinawa Islands, central Ryukyus, southwestern Japan

Hiroaki Shigetoh

Yokohama Plant Protection Station, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan, 5–57 Kitanakadori, Nakaku, Yokohama, Kanagawa 237–0003, Japan (mofosr.45.9@gmail.com)

Abstract. Senaga-jima Island, belonging to the Okinawa Islands, central Ryukyus, southwestern Japan, has developed rapidly in the past few decades, and its environment has changed drastically. I recently conducted field and literature surveys on the chrysomelid fauna of Senaga-jima Island and within discuss faunal changes between pre- and post-development. Recent field surveys (2018–2020)